

2019年7月5日（金）

老球の細道491号

「星」は類を呼ぶ

会津バスケットボール協会 室井 富仁

米国でプロバスケットボールが誕生したのは、バスケットボール人気が沸騰し愛好者がYMCA体育館を独占しすぎたことがきっかけである。他の競技者からクレームをつけられYMCA体育館を使用できなくなってしまったからである。そのため町の体育館を使用し、使用料をねん出するためにゲームを観戦した人たちから観戦料をとった。そして、予想以上に観客が集まりお金が余ってしまったので、余ったお金を選手たちで分け合ったことからプロバスケットボールチームが誕生することになった。

その後、2つのリーグ（ABA、NBA）の統一により現在のNBAとなった。1980年代にマジック・ジョンソン、ラリー・バード、マイケル・ジョーダンなどのスーパスター選手が加入し人気は急上昇する。そしてあのバルセロナ五輪のドリームチームによって世界的な人気プロスポーツに成長して現在の確固たる地位を築いたのである。

そのNBAドラフト会議で八村塁が1巡目全体9位でワシントンウィザーズから指名された。日本選手の1巡目指名は史上初である。このことは「100年に1度あるかないかの出来事」とか「今年の日本スポーツ界ではNO1のビッグニュース」と識者達は評している。なにせ、世界中にバスケットボールの競技者は約4億人いると言われている。NBAの1巡目とは世界中から選ばれたその中の30人（30チーム）である。

1981年に身長228cmの岡山恭崇（当時住友金属）が日本選手として初めてドラフト指名を受けたことがある。住友金属が難色を示して入団には至らなかった。彼の持ち味はけた外れの身長であったが、八村は身長も2mを超えていたが、スピードもジャンプ力も本場でも堂々と渡り合える身体能力を兼ね備えている。

それを証明するエピソードをかつてトステイン・ロイブル氏から聞いたことがある。彼のクリニックでは選手のモチベーションを上げるためにクリニックの合間にやる余興がある。バスケットボールに1万円札をガムテープで張り付ける。選手をエンドラインに並ばせてフリースローラインでトステインが1万円ボールをワンバウンドさせる。それをダッシュしてワンバウンド内でキャッチすれば1万円ゲットするゲームである。私は今までゲットした選手を見たことがなかった。ある時トステインに今までゲットした選手はいたのかと聞いたら、たった一人だけいたと言う。それが八村塁。

今回八村塁によって、日本人のドラフト指名、NBA選手などの絶対不可能だと信じられていた壁が、今後いとも簡単に崩されていくのではないだろうか。現在も日本からアルバルク東京の馬場雄大や栃木ブレッक्सの比江島慎などがNBAサマーリーグに参加してNBA入りのチャンスに挑戦している。日本のBリーグでも遂に1億円プレイヤーも誕生した。1人が不可能を可能にすると他の者も可能にしてしまう。集団の波及効果である。

今まで「夢」でしかなかった「NBA」が「目標」になってきた。そして今まではバスケットボールでは夢しか食えなかったが、今はバスケットボールで飯が食えるようになってきた。多くの若者が現状に甘んじないで更なる高みにチャレンジしてほしい。

蛇足：NBAでは初かもしれないが、そもそも世界で初めてバスケットボールをプレイした18人の中に日本人が1人いたことも忘れてはいけない。石川源三郎である。